大阪医科大学附属病院 広域医療連携センター

MIZUKI

医療連携室ニュース「みずき」

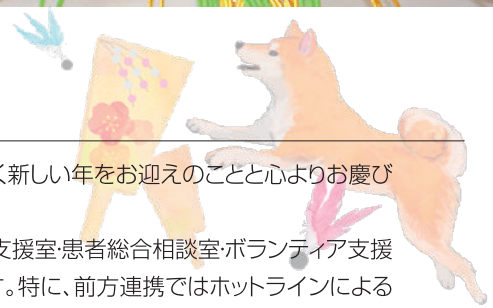
〔volume〕36
2018 January

CONTENTS

2018年頭のご挨拶
婦人科・腫瘍科特集
婦人科悪性腫瘍に対する
さらなる低侵襲手術を目指して
（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
アレルギー性鼻炎の治癒を
目指した免疫療法
（脳神経外科・脳血管内治療科）
大阪医科大学病院の
脳卒中ホットライン
医療連携室からのお知らせ
編集後記

広域医療連携センター
センター長
内山 和久

2018年頭のご挨拶



明けましておめでとうございます。先生方におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

2012年に設置された「広域医療連携センター」（医療連携室･入退院支援室･患者総合相談室･ボランティア支援室）の活動は軌道に乗り、医療連携や患者支援の強化に繋がっています。特に、前方連携ではホットラインによる救急患者の受け入れ、予約によるスムーズな受診の構築が進んでおります。後方連携では、5大がん（乳がん、胃がん、大腸がん、肝がん、肺がん）パスと前立腺がんのパス、糖尿病パスをはじめとした地域連携パスも医師会とともに作成して積極的に運用するなど、かかりつけ医をもつことの啓発も含めて活発な連携を推進しております。

2016年春に建設された中央手術棟により手術症例も増加しましたが、本年から本格的な新病棟建設計画がスタートします。4年後にはメインのA(北)病棟が建設されますが、外来を主としたB(南)病棟、6号館を改築した管理棟、講堂棟などすべてが整備されるのはほぼ10年先、つまり大阪医科大学創立100周年を迎える頃になります。

職員一同、今後とも特定機能病院の名に恥じない高度な先進医療を推進して参りますので、先生方の窓口となる「広域医療連携センター」を何卒よろしくお願い申し上げます。

婦人科・腫瘍科特集

婦人科悪性腫瘍に対する さらなる低侵襲手術を目指して

婦人科・腫瘍科 医長 寺井（てらい） 義人（よしと）

本邦初 先進医療に承認「腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術」

近年、さまざまな腫瘍に対して腹腔鏡やロボットなどを用いた鏡視下手術が行われるようになりました。当科では、子宮体がんは2010年から腹腔鏡下（準広汎）子宮全摘出術を、子宮頸がんは2014年から腹腔鏡下広汎子宮全摘出術を開始し、現在までに本邦の大学病院では最も多い約300例の腹腔鏡下悪性腫瘍手術を行ってまいりました（写真1）。

腹腔鏡下手術のメリットはすでにご承知のことと存じますが、開腹手術と比較すると、拡大した視野でより細かな手術操作が可能で有意に術中出血量が少ないことや、腸閉塞など術後の合併症も少ないことが知られています。

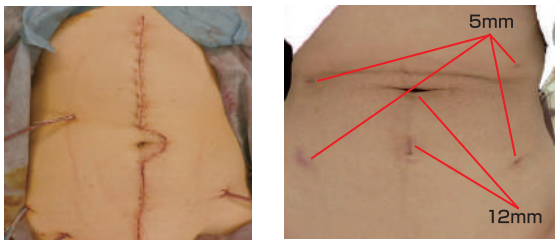
この度当科では、2017年7月本邦で初めて子宮体がんに対して「腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術」が先進医療に承認されました（先進医療費979,000円）。

「腫瘍の筋層浸潤が1/2以上」や「類内膜癌grade3」「漿液性腺癌」など悪性度が高い子宮体がんにおいて通常の開腹術では、剣状突起から恥骨上まで約50cmの切開が必要であるのに対し（写真2.左）、腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術では、腹部に0.5～1cmの穴を6か所あけるだけで（写真2.右）、従来の開腹手術と同等の手術を行うことができます。

また、子宮頸がんに対しては「腹腔鏡下広汎子宮全摘出術」も行っており（先進医療費692,000円）、多くの患者さんに良好な治療成績と低侵襲な手術を提供しております。

（写真1）

（写真2）傍大動脈リンパ節郭清手術創の違い



開腹手術　　腹腔鏡下手術

さらなる低侵襲手術を目指して

当科では、乳がんなどで取り入れられているセンチネルリンパ節生検を早期子宮体がん・子宮頸がんに対し臨床研究にて行っております。センチネルリンパ節に転移がなければ骨盤リンパ節郭清は行わないため下肢浮腫などの術後合併症の軽減が図れます。

また、ロボット支援下手術も取り入れ（写真3）、腹腔鏡下手術とともに低侵襲な手術を行っており、多くの患者さんをご紹介いただいております。

子宮体がんや子宮頸がんで腹腔鏡下手術やロボット支援下手術をご希望の患者さんがいらっしゃいましたら、是非ご紹介、ご相談いただきますようよろしくお願いいたします。ご紹介の際には、本院医療連携室にてご予約ください。

（写真3）

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

アレルギー性鼻炎の治癒を目指した免疫療法

医長 寺田 哲也（てらだ てつや）

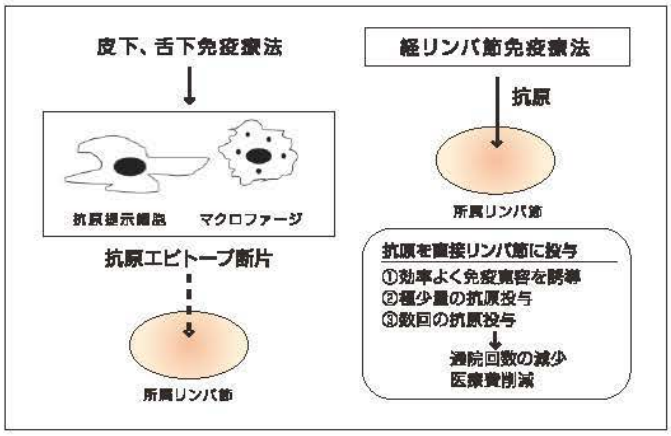
スギ花粉症に対する薬物療法はあくまで対症療法であり、花粉症を治癒させることはできません。

当科では、アレルギー専門外来を水曜日の午後に開設していますが、その主な診療内容は治癒を目指した抗原特異的免疫療法であり、皮下免疫療法（Subctaneous Immunotherapy :SCIT）と舌下免疫療法（Sublingal Immunotherapy:SLIT）を中心に施行しています。

「世界で唯一の免疫療法」

当科ではスギ花粉症に対する経リンパ節免疫療法（Intralymphatic Immunotherapy：ILIT）を臨床研究として施行しています。極少量の抗原を鼠径部リンパ節に超音波エコーガイド下に投与する（3回のみ）免疫療法です。スギ花粉症に対するILITを施行してるのは世界でも当科しかございません。

薬物療法でコントロールが困難である、または根治を目指す免疫療法を希望する患者さんがいらっしゃいましたら是非ご紹介ください。



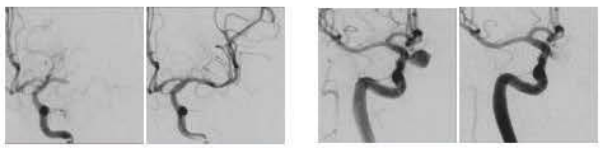
脳神経外科・脳血管内治療科

大阪医科大学病院の

脳卒中ホットライン

科長 黒岩 敏彦（くろいわ としひこ）
平松 亮（ひらまつ りょう）

脳卒中は、脳梗塞・クモ膜下出血および脳出血など多岐にわたるため、一般病院や開業医の先生方が遭遇する機会が多いのではないでしょうか。クモ膜下出血や脳出血は緊急性が高いと認識されていますが、むしろ急性期脳梗塞患者こそ治療開始に緊急性を要します。ご存じの通り**発症後4.5時間以内の脳梗塞症例にはrt-PA静注療法が適応**となり、さらには**2015年より発症後6時間以内の脳梗塞症例には血管内治療による再開通療法が適応**となっています。そのため患者搬入までの時間短縮が望まれます。そこで大阪医科大学病院では、地域の医療機関から脳卒中患者さんをスムーズに受け入れられるように、24時間365日、脳卒中専門医に常時連絡がとれる体制を整えました。そして2014年12月より**脳卒中ホットライン**を開設し、2017年1月末までに141件の脳卒中および脳卒中疑い患者を受け入れ、そのうち30件に治療（穿頭術=11件、開頭術=5件、血管内治療=13件、t-PA静注療法=1件）を行っています。引き続き、多くの脳卒中患者の受け入れを目指していますので、脳卒中疑いであってもお気軽にご連絡ご活用いただければ幸いです。



再開通療法前　再開通療法後　コイル塞栓術前　コイル塞栓術後

医療連携室からのお知らせ

「多職種協働による連携強化のための研修会」を開催しました

去る12月2日(土)午後2時～5時、本院におきまして『多職種連携の推進』をテーマに研修会を開催しました。講師には櫃本真聿(ひつもとしんいち)先生(四国医療産業研究所 所長) をお招きしました。

本院および大阪医科大学三島南病院の連携に関わるスタッフ総勢30名が参加。医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、事務員など職種は多岐にわたりました。

はじめに櫃本先生から、『「地域包括ケア時代」元気高齢者の育成支援～生活に戻すための多職種連携～』をテーマにご講演いただきました。その後、グループに分かれてディスカッションに取り組みました。

参加者からは、「こうした多職種の交流の場で意見や情報を共有して、多職種の理解を深めたい」「自分の役割・機能を問い直し、あり方に立ち戻って考えてみたい」「もっと妄想して、志を共有できる本来の連携関係を構築したい」など、連携の根本まで見直すことのできる貴重な研修会となりました。

高度急性期の大学病院として、多職種で質の高い効率的な医療連携を担う――。地域包括ケア時代の本格的な到来を迎え、地域からの信頼に応えることができるようこれからも研鑽を積んで参ります。

編集後記

圧倒的な達成感を感じてみたい。

至福の充実感に酔いしれたい。そんなことを考えていたら勢いでウルトラマラソンにエントリーしていた。

100キロ超の距離、フルマラソンは何度か走っているとはいえ、果たして完走できるか。不安がよぎる。しかし、新しい自分に挑戦してみたい。今の自分を超えていきたい。その気持ちが勝り決意した。無謀な挑戦には、無謀な練習が必要。そう考え練習でも尋常じゃない走行距離を自分に課した。

いよいよ大会当日、スタートは朝5時。早朝まだ暗い中で始まった。途方もない距離。5時間経ってもまだ半分にも達しない。ずいぶん進み80キロ地点、残り20キロ表示。けど、気やすめにもならない。一歩一歩を積み重ね、12時間後、どうにかスタートした地点に戻りゴールテープを切ることができた。

力強くおし寄せる感動。やり切った。うわべの軽い高揚じゃない。身体の底から生まれる重心の深いところで満たされた感覚。

走り終えて強く感じたこと。前進すれば必ずゴールは近づいていく。至極当然のこと。

そしてもうひとつ、決意で人は変われる。

新たな年を迎え、また新しい決意を刻み込む。（M・M）

医療連携室ご利用のご案内

医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

平日／8:30～20:00　土曜日／8:30～12:00

※第2･第4土曜日は休診です。

※FAX受信は24時間可能(休診時も含む)。
但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

大阪医科大学附属病院広域医療連携センター医療連携室

〒569-8686　大阪府高槻市大学町2-7

- TEL.072-683-1221（大代表）内線2308
- TEL.072-684-6338（医療連携室直通）

FAX **送信先 FAX 072-684-6339**

本院専用のFAX紹介申込書及び封筒をご用意しております。
ご利用の場合は、電話またはFAXにてご請求ください